

庭の梅の木の実が大きくなってきました。子どもたちは園庭に落ちている桜の実を集め、ポケットに入れたり、ままごとの料理にしたりして遊んでいます。5月には、すみれ組とたんぽぽ組の子どもたちがアサガオ、ホウセンカ、コスモスの種を蒔きました。成長させて下さる神さまを覚えながら芽が出て、成長していく過程を子どもたちと楽しみたいと思います。

## 「砂場で遊ぼう！」

## 1学期の保育の視点②より

## — 自分の好きな遊びを見つけ、くり返し楽しむ —

私たちは子どもたちが砂場で砂や泥や水の感触を感じ、心を開放して思いきり遊ぶ心地良さや楽しさを体験していると思っています。どの子どもにも砂場で遊ぶ楽しさ知ってほしいと願い、集まりの時間にクラスごとに砂場で遊ぶ時を過ごしました。

Aちゃんは、スモックを着てブルマースを履き、裸足で砂場へ行くと、「気持ちいいね。砂の上はあたたかいね」と言いながらゆっくり歩き回りました。Aちゃんは今まで砂場で遊ぶことが少なかった子どもでしたが、自分でシャベルを持って来て、穴を掘り始めました。少しずつ穴が大きくなってきました。Aちゃんは「そうだ。水を入れてみよう」と、ジョウロに水を汲んで掘った穴の中に流しこみました。すると、水はあっという間に砂の中にしみ込んでなくなってしまいました。Aちゃんはまたジョウロに水を入れ、掘った穴の中に流し込みました。今度は少し水が残りました。Aちゃんは嬉しくなり、もう一度ジョウロに水を汲みに行きました。小さな池ができました。Aちゃんはそっと池の中に足を入れてみました。「パシャパシャ」と音を立てて歩いた後、Aちゃんはもっとたくさんの水を入れたくなり、ジョウロを2つ手に持って、水を運び始めました。Aちゃんが何度も水を入れていくと、水は池からあふれ出しました。

Aちゃんの隣では、Bちゃんが大きいシャベルで川を作っていました。私はAちゃんの池とBちゃんが作っている川がつながったら楽しくなると思い、Aちゃんに「大きくなってきたから、Bちゃんとなつながりそうね」と声を掛けました。するとAちゃんは目を輝かせながら、「いいね。いいね」と言いました。話を聞いてBちゃんも「一緒につなげよう。僕は力持ちだから任せて」とシャベルで道を掘っていきました。Bちゃんが「よいしょ。よいしょ」と砂を持ち上げ、Aちゃんは池からBちゃんの川に向かって水を流しました。Aちゃんの流した水がBちゃんの川に届きました。AちゃんとBちゃんはさっそく川の中に足を入れてみました。二人は「冷たいね」「こっちはあたたかいよ」「ここは深いね」「もっと大きくしようよ」と言いながら行ったり来たり川の中を歩きました。Aちゃんは空と川を見ながら「ここは水沢の森みたいだね」と言いました。春の遠足で行った水沢の森には川が流れていたこと、青空が広がっていたことを覚えていたのですね。

その後、川はまた隣の川へとつながっていき、どんどん長くなっていきました。組み木を橋にしたり、シャベルを舟にして浮かべたり、山を作ったり…Aちゃんの砂場遊びは、お弁当を食べ

終わった後も続く楽しい遊びになりました。

子どもたちは砂場で、お団子やケーキなどの料理を作ったり、山にしたり、穴を掘ったり、水を流したりしながら自分と砂、水との関わりを楽しんでいます。そのこともたっぷり味あわせたいことです。また、その中で友だちとつながる嬉しさも生まれます。子どもたちの好きになっていること、楽しくなっている遊びに目を向け、これからも引き続き楽しさが深まっていくよう遊びや集いの中で支えていきます。



### 「Dちゃんと遊びたい！」

### 保育の視点②より

Cちゃんは毎日、Dちゃんと遊ぶことを楽しみに登園しています。DちゃんもCちゃんと遊ぶことが嬉しいのですが、5月になりCちゃんだけでなくEちゃんとも一緒に遊びたいと思うようになりました。

ある日のことです。DちゃんはEちゃんとブランコで遊んでいました。後から来たCちゃんはDちゃんのところへ行き、「一緒に遊ぼう」と誘いました。DちゃんはEちゃんと遊びたかったのですが、そのことをCちゃんに伝えられず、困った顔で黙ってブランコに乗っていました。「遊ぼう」と何度も言ってもDちゃんが「いいよ」と言ってくれないことが悲しくなったCちゃんはその場でしくしく泣き出しました。Cちゃんが泣いてもDちゃんは黙っています。どうして良いか分からなくなったCちゃんは着ていたスモックを脱いでグルグル回し始めました。

近くで見ていた私はCちゃんに「悲しかったのね」と声を掛けました。Cちゃんはこくりとうなずき、「Dちゃんが一緒に遊んでくれない」と言って泣きました。Dちゃんはブランコに乗りながらじっとCちゃんのことを見えています。私はDちゃんの傍へ行き、Cちゃんの気持ちを伝えました。するとDちゃんは私に「Eちゃんと遊びたい」と小さな声で言いました。私は二人の話を聞き、Cちゃんの悲しい気持ちもDちゃんのEちゃんと一緒に遊びたい気持ちも受けとめた上で、Dちゃんの新しい友だちとのつながりとCちゃんの一人でも遊び出せる歩みを支えていきたいと思いました。Cちゃんに「DちゃんはEちゃんと遊びたいんですって。そういう時もあるわね。今日は遊べないけれど、また今度遊べるといいわね」と伝えました。Cちゃんはしくしく泣きながら、うなずきました。

しばらくの間、Cちゃんは離れたところからDちゃんとEちゃんが遊んでいる様子を見ていましたが、やがて自分から砂場へ向かって歩き出しました。Cちゃんはバケツに水を入れ、その中に砂を入れながらゆっくりかき混ぜました。私がCちゃんの近くへ行くと、Cちゃんは「今、ケーキを作っているんだよ。できたら食べに来てね」と言いました。

園生活では、友だちとの関わりを深めたり、新たな関わりができたりする中で、自分の思い通りにならなく、悲しい気持ちになることがあります。一緒にいたい友だちが離れることに戸惑い、

立ち止まることはありますが、その中で新しい友だちと出会ったり、一人でも自分のしたいことをじっくり取り組む楽しさを感じたりしていきます。私は子どもたち一人ひとりの思いを知り、動き出すための一歩を支えていける者でありたいと思います。 (藤野 佳代)